

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年7月）

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症が急増しています。
- 手足口病が増加し、市内複数の地域で警報レベルに達しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症が多く発生しています。
- 梅毒などの性感染症は、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

<7月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	18件	急性脳炎	1件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
日本紅斑熱	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	7件	梅毒	15件
アメーバ赤痢	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
ウイルス性肝炎	2件	麻しん	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件		

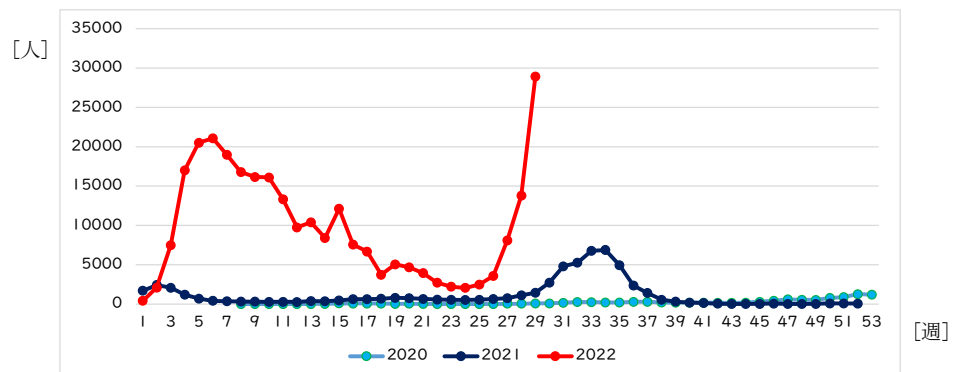
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～90歳代で、O157が9件、O26が1件、O103が2件、O不明が6件報告されました。9件は経口感染と推定され、9件は感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**:30歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **デング熱**:20歳代で、蚊による感染(海外)と推定されています。
- 4 **日本紅斑熱**:70歳代で、マダニによる感染と推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:50歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 6 **アメーバ赤痢**:70歳代で、感染経路等不明です。
- 7 **ウイルス性肝炎**:30歳代～60歳代で、B型が1件(ワクチン接種歴無)、CMVが1件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 **急性脳炎**:10歳未満で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10歳未満で、感染経路等不明です。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満(ワクチン4回接種)の報告が2件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 12 **水痘(入院例に限る)**:50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 13 **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件の報告がありました。いずれも性的接触による感染(異性間13件、同性間1件、詳細不明1件)です。
- 14 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**:80歳代、感染経路等不明です。
- 15 **麻しん**:70歳代(ワクチン接種歴無)で、感染経路等不明です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

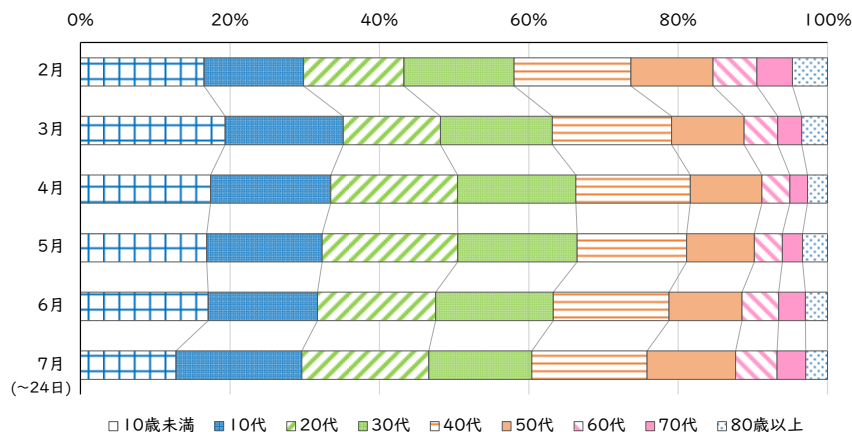
第26週～第29週に横浜市から報道発表がありました症例は54,409件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

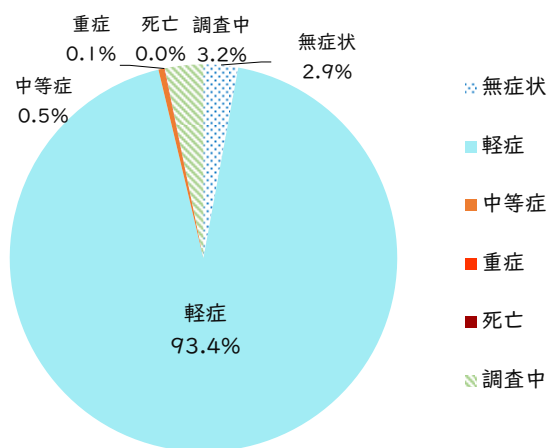
### 1 報告数の推移



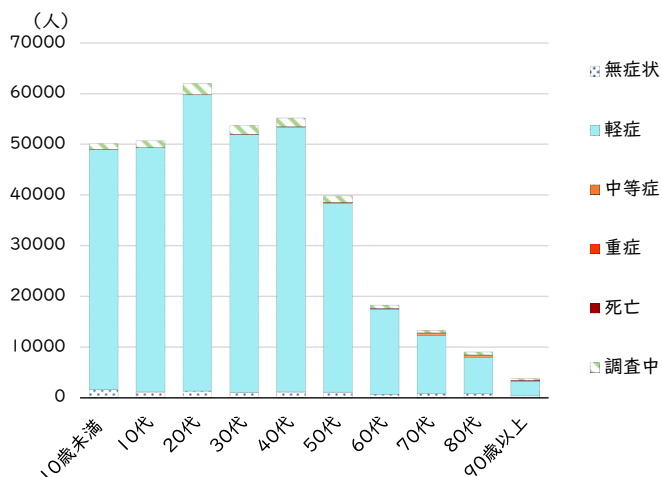
## 2 年齢層別患者割合



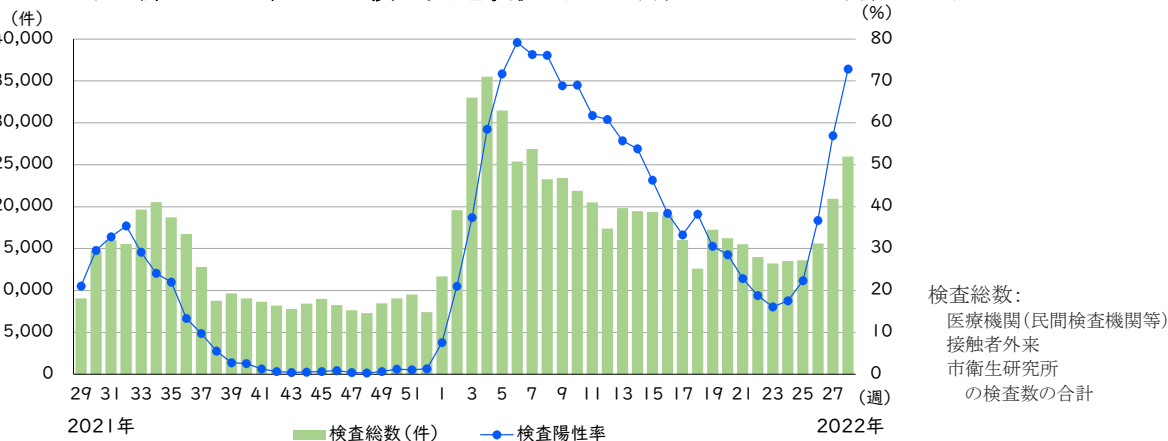
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022年第29週まで)



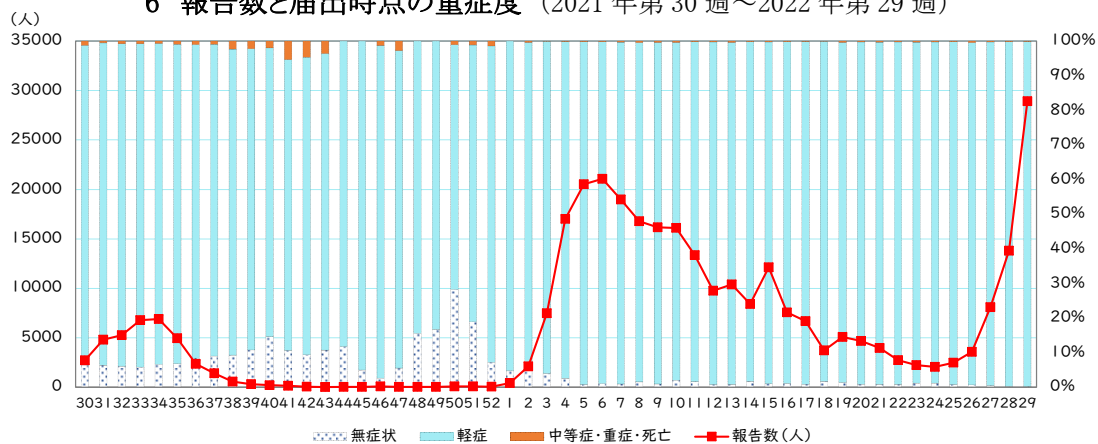
## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第29週まで)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第29週~2022年第28週)



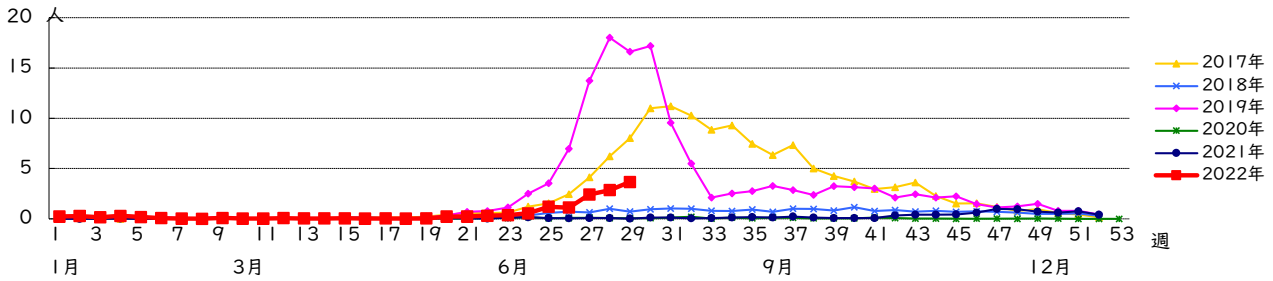
## 6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第30週~2022年第29週)



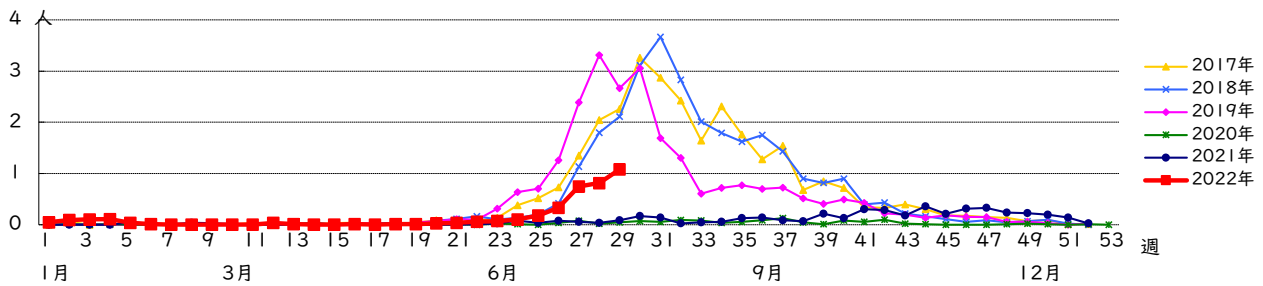
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第26週	6月27日～7月 3日
第27週	7月 4日～7月10日
第28週	7月11日～7月17日
第29週	7月18日～7月24日

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第27週は2.42、第28週は2.86、第29週は3.68と増加しています。市内複数の地域で警報レベルに達しています。



2 ヘルパンギーナ：第20週以降増加が続き、第27週は0.74、第28週は0.81、第29週は1.08と増加しています。



3 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:34件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 10件	女性: 4件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:13件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

## ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### 〈ウイルス検査〉

7月期(2022年第26週～第29週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点2件、眼科定点5件、基幹定点2件、定点外医療機関からは3件でした。

8月5日現在、表に示したアデノウイルス2型の分離株3例と、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ボガウイルス、パレコウイルス3型の遺伝子が各1例ずつ同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第26週～第29週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	そ の 他
	アデノウイルス 2型	2 -	1 -
RSウイルス		- 1	
ヒトメタニューモウイルス	- 1		
ボガウイルス	- 1		
パレコウイルス 3型			- 1
合 計	2 2	1 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

7月期(2022年第26週～第29週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、ブラキスピラ属菌1件、黄色ブドウ球菌1件でした。非定点からの依頼は、ストレプトコッカス属菌2件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌13件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、侵襲性肺炎球菌2件、カンピロバクター1件、大腸菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼はレジオネラ属菌8件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から咽頭炎が1件、胃腸炎が1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第26週～第29週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1), <i>Escherichia coli</i> (1)	
	基幹定点 ブラキスピラ属菌	1	<i>Brachyspira pilosicoli</i> (1)	
	黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
非定点	ストレプトコッカス属菌	2	菌種同定中 (2)	
保健所	腸管出血性大腸菌	13	O157 : H7 VT1 VT2 (5)、 O157 : H7 VT2 (2)、 O26 : H11 VT1 (3)、 O103 : Hg25 VT1 (2)、 O103 : H2 VT1 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Citrobacter freundii</i> complex (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)、 <i>Morganella morganii</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (2)	
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)	
	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O161 : Hg4 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	8	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (4) 培養陰性 (4)
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	溶血性レンサ球菌 不検出 (1)
	直腸ぬぐい	胃腸炎	1	腸管病原大腸菌(EPEC) O115:Hg25 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】